

伊那谷・経済動向

中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

<http://www.alupuscho-shinkin.jp/>

ALSHIN
BANK

主要指標		今期	前年同期	前年同期比
有効求人倍率 (伊那公共職業安定所管内)		2021/8 1.45 倍	2020/8 0.70 倍	前年同月比 0.75 倍
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新車	5,597 台	6,712 台	-16.61 %
	中古車	2,117 台	2,312 台	-8.43 %
	合計	7,714 台	9,024 台	-14.52 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡)		6~8月 247 件	6~8月 274 件	-9.85 %
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数		57,091 人	58,234 人	-1.96 %
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	265,135 台	243,613 台	8.83 %
	出	245,340 台	231,576 台	5.94 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	249,698 台	257,434 台	-3.01 %
	出	261,025 台	266,128 台	-1.92 %
中央道利用台数 (小黒川スマートインター分)	入	115,493 台	98,139 台	17.68 %
	出	113,943 台	99,980 台	13.97 %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	219,695 台	223,199 台	-1.57 %
	出	224,973 台	227,837 台	-1.26 %
中央道利用台数 (駒ヶ岳スマートインター分)	入	58,518 台	51,149 台	14.41 %
	出	51,205 台	44,968 台	13.87 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	157,228 台	198,392 台	-20.75 %
	出	155,055 台	192,580 台	-19.49 %

前期 4 - 6月 今期 7 - 9月 来期 10 - 12月 1 - 3月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先194社に対し、2021年7月～9月期の景気の現状と2021年10月～12月期の見通しを調査したものです。

地区内の景況観

◇**今期の業況**：今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は17.5%（前期13.9%）、悪かったとする企業は46.4%（前期47.0%）であった。良かったとする企業を業種別に見ると、**製造業が32.3%**（前期27.0%）と最も多く、続いて**建設業が15.8%**（前期12.8%）、**卸売業が12.5%**（前期0.0%）の順、また、悪かったとする企業を業種別に見ると、**サービス業が78.3%**（前期84.2%）と最も多く、続いて**小売業が73.3%**（前期73.3%）、**卸売業が50.0%**（前期55.6%）であった。

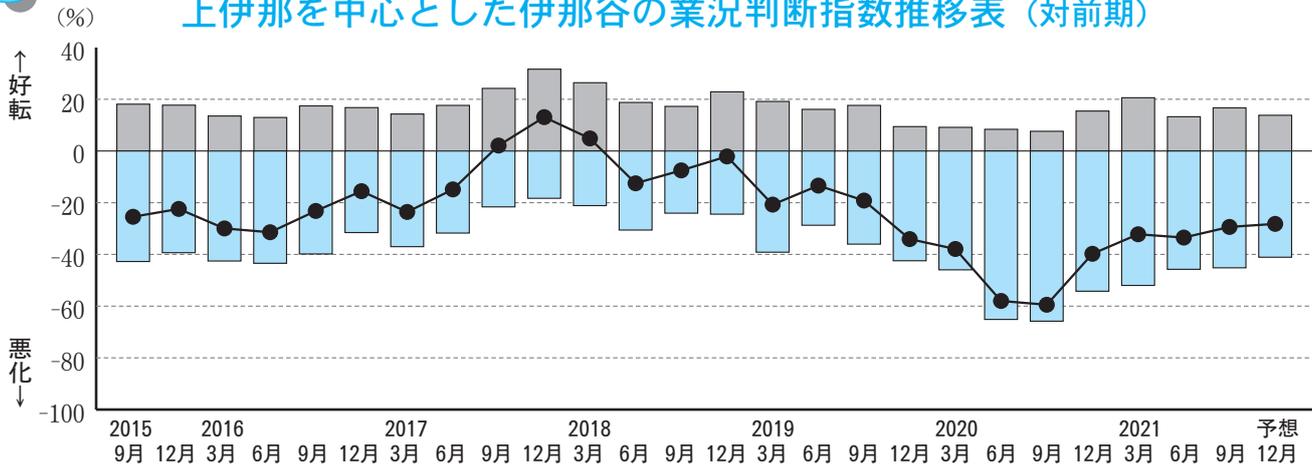
DIを総合的に見ると▲28.9（前期▲33.1）と4.2ポイントの上昇で、景況感はやや厳しさが和らいだ。

業種別にDIを見ると、**不動産業が▲20.0**（前期▲16.7）とやや低調感を強めたが、他の業種では、**卸売業が▲37.5**（前期▲55.6）で18.1ポイント上昇したのをはじめ、**製造業が▲4.8**（前期▲11.1）で6.3ポイント、**サービス業が▲78.3**（前期▲84.2）で5.9ポイント、**建設業が▲7.9**（前期▲12.8）で4.9ポイント、**小売業が▲66.7**（前期▲70.0）で3.3ポイントそれぞれ上昇しいずれも水面下ではあるものの改善の兆しが見えている。

◇**来期の見通し**：来期の業況予想を総合的に見ると、良いと予想する企業は14.5%（今期17.5%）、悪いと予想する企業は42.2%（今期46.4%）、DIは▲27.7（今期▲28.9）で1.2ポイント上昇し、わずかながら上向き予想となっている。

業種別のDIを見ると、**サービス業▲78.3**、**小売業▲50.0**、**卸売業▲25.0**、**不動産業▲20.0**、**製造業▲14.5**、**建設業▲2.6**ポイントとなっており、全ての業種でマイナス領域の予想をしている。今期と比較すると、**製造業が▲9.7**ポイントで今期を下回る見通し、**サービス業と不動産業は今期と変わらない見通し**であるが、**小売業は16.7**ポイント、**卸売業が12.5**ポイント、**建設業が5.3**ポイント、それぞれ水面下ながらも良化を予想している。

上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表（対前期）



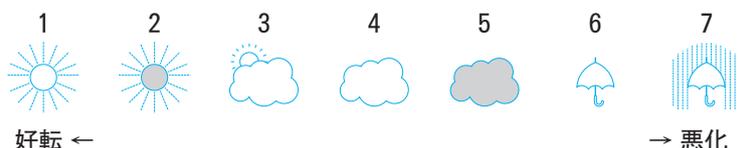
※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。

※DIとは、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。

なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

業種別天気図

業種	時期	2021年	2021年	2021年	2021年
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期予想
総合		☔	☔	☁	☁
製造業		☁	☁	☁	☁
建設業		☁	☁	☁	☁
卸売業		☔	☔	☔	☁
小売業		☔	☔	☔	☔
サービス業		☔	☔	☔	☔
不動産業		☔	☁	☁	☁



製 造 業 (調査先企業72社 うち回答企業62社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**32.3%**（前期**27.0%**）、悪かったとする企業は**37.1%**（前期**38.1%**）で、DIは**▲4.8**（前期**▲11.1**）でプラス**6.3**ポイントと水面下ながら改善されている。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**6.5**（前期**4.8**）で上昇したとする企業の割合は増加、**受注残**のDIは**1.6**（前期**▲4.8**）でマイナス領域からプラス領域へ転じている。**収益**のDIにおいては**▲14.5**（前期**3.2**）で**▲17.7**ポイントとプラス領域からマイナス領域へ転じている。価格の面では、**原材料価格**のDIは**▲43.5**（前期**▲46.0**）で、回答のあった企業はすべて上昇したとの回答結果であった。また、**販売価格**のDIにおいては**▲1.6**（前期**7.9**）で**▲9.5**ポイントと下降と答えた企業の割合が増加している。**資金繰り**のDIは、**▲3.2**（前期**▲4.8**）と**1.6**ポイント窮屈感は減っている。

借入れをした企業は**17.7%**（前期**33.3%**）、**設備投資の実施**をした企業は**47.9%**（前期**56.6%**）であった。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**29.0**（前年同期**▲69.8**）、**収益**のDIは**21.0**（前年同期**▲66.7**）とそれぞれ**98.8**ポイント、**87.7**ポイントプラスで水面下を脱し良化している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲14.5**（今期**▲4.8**）と**9.7**ポイント下降で、引き続き低迷する予想をしている。

各指標別を今期と比べてみると、**売上額**のDIは**▲3.2**（今期**6.5**）と**9.7**ポイント下降でマイナス領域に転じる予想、**収益**のDIについても**▲16.1**（今期**▲14.5**）と**▲1.6**ポイントで更に厳しさが増すと予想している。**受注残**のDIも**▲8.1**（今期**1.6**）と**▲9.7**ポイントで減少すると予想している。**原材料価格**のDIは**▲38.7**（今期**▲43.5**）であったが、下降を予想する企業は無かった。**販売価格**のDIにおいては**8.1**（今期**▲1.6**）と上昇に転じる予想である。**資金繰り**のDIは**▲3.2**（今期**▲3.2**）と窮屈感には変化がない見通しである。**借入れ**を予定している企業は**13.1%**（今期実施**17.7%**）、**設備投資の実施**を予定している企業は**32.8%**（今期実施**47.9%**）となっている。

◆DI指数推移

	2020年		2021年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	▲71.4	▲46.4	▲26.6	▲11.1	▲4.8	▲14.5
売 上 額	▲38.1	14.5	▲15.4	4.8	6.5	▲3.2
受 注 残	▲50.8	1.4	▲13.8	▲4.8	1.6	▲8.1
収 益	▲50.8	▲2.9	▲15.4	3.2	▲14.5	▲16.1
販 売 価 格	▲6.3	▲8.7	▲4.6	7.9	▲1.6	8.1
原 材 料 価 格	▲14.3	▲5.9	▲24.8	▲46.0	▲43.5	▲38.7
原 材 料 在 庫	4.8	1.5	3.1	▲4.8	0.0	0.0
資 金 繰 り	▲22.2	▲10.3	▲1.6	▲4.8	▲3.2	▲3.2

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	した	58.7	47.8	40.6	33.3	17.7	13.1
	しない	41.3	52.2	59.4	66.7	82.3	86.9
借 入 難 易 度	容 易	15.9	13.0	9.2	14.5	11.3	—
	不 変	74.6	66.7	80.0	67.7	72.6	—
	難	3.2	7.2	1.5	4.8	6.5	—
	該当なし	6.3	13.1	9.3	13.0	9.6	—

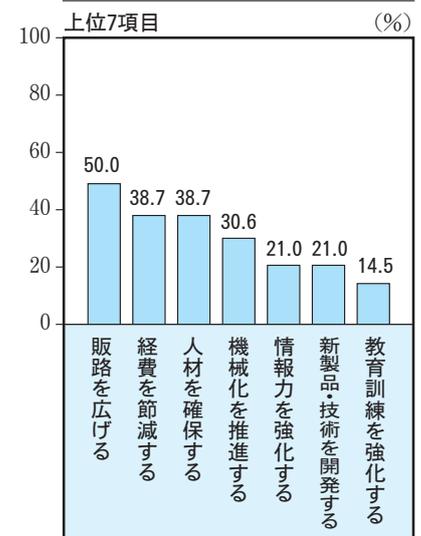
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	した	42.7	38.3	44.2	56.6	47.9	32.8
	しない	57.3	61.7	55.8	43.4	52.1	67.2
状 況	過 剰	15.9	7.2	7.7	6.3	3.2	3.3
	適 正	73.0	78.3	72.3	73.1	74.2	70.5
	不 足	11.1	14.5	20.0	20.6	22.6	26.2
DI	4.8	▲7.3	▲12.3	▲14.3	▲19.4	▲22.9	

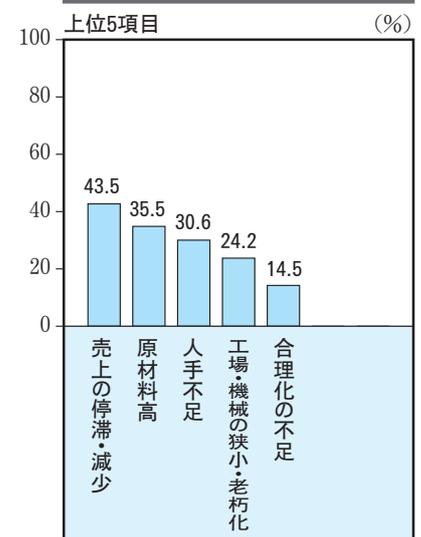
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	7.9	21.7	33.8	27.4	38.7	30.6
	不 変	27.0	40.6	50.8	56.5	46.8	51.7
	減 少	65.1	37.7	15.4	16.1	14.5	17.7
人 手	過 剰	35.5	24.6	20.6	14.3	6.5	8.1
	適 正	58.0	53.7	54.0	55.5	59.6	59.6
	不 足	6.5	21.7	25.4	30.2	33.9	32.3

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

建設業 (調査先企業42社 うち回答企業39社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は15.8%（前期12.8%）、悪かったとする企業は23.7%（前期25.6%）で、DIは▲7.9（前期▲12.8）とプラス4.9ポイントで水面下ながら改善傾向となった。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは▲7.7（前期▲25.6）とプラス17.9ポイント、収益のDIは▲20.5（前期▲25.6）でプラス5.1ポイント、受注残のDIは2.6（前期▲12.8）でプラス15.4ポイント、施工高のDIにおいては▲2.6（前期▲25.6）でプラス23.0ポイントと、どの項目においても改善傾向が見られる。価格面では、請負価格のDIは▲5.1（前期▲5.1）で変わらず低迷、材料価格のDIは▲71.8（前期▲64.1）でマイナス7.7ポイントと更に上昇が強まっている。資金繰りのDIは▲10.3（前期▲7.7）、▲2.6と窮屈感が強まっている。借入れをした企業は28.9%（前期34.2%）、設備投資の実施をした企業は40.5%（前期55.8%）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは0.0（前年同期▲37.5）で水面下を脱し回復、収益のDIは▲7.7ポイント（前年同期▲30.0）と22.3ポイント上昇で、水面下ではあるが持ち直してきている。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、業況のDIは▲2.6（今期▲7.9）と5.3ポイント上昇、厳しさが若干和らぐ予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは▲5.1（今期▲7.7）とプラス2.6ポイント、収益のDIは▲17.9（今期▲20.5）とプラス2.6ポイントで、どちらも減少幅が縮小する予想、受注残のDIについては2.6（今期2.6）と変わらない見通しである。価格面では請負価格のDIは▲7.7（今期▲5.1）で下降を強め、材料価格のDIにおいては▲53.8（今期▲71.8）と上昇は弱まる見通しである。資金繰りのDIは▲7.7（今期▲10.3）とやや厳しさは緩和される予想である。借入れを予定している企業は26.3%（今期実施28.9%）、設備投資の実施を予定している企業は33.3%（今期実施40.5%）となっている。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

◆DI指数推移

	2020年		2021年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	▲17.5	2.4	5.1	▲12.8	▲7.9	▲2.6
売 上 額	▲12.5	▲7.3	▲12.8	▲25.6	▲7.7	▲5.1
受 注 残	▲5.0	▲4.9	▲15.4	▲12.8	2.6	2.6
収 益	▲20.0	▲7.3	▲23.1	▲25.6	▲20.5	▲17.9
販 売 価 格	▲15.0	▲2.4	▲10.3	▲5.1	▲5.1	▲7.7
原 材 料 価 格	▲12.5	▲26.8	▲20.5	▲64.1	▲71.8	▲53.8
原 材 料 在 庫	7.5	4.9	▲2.6	▲5.3	2.6	5.3
資 金 繰 り	▲5.0	5.0	▲17.9	▲7.7	▲10.3	▲7.7

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	した	46.2	42.5	52.6	34.2	28.9	26.3
	しない	53.8	57.5	47.4	65.8	71.1	73.7
借 入 難 易 度	容 易	7.7	15.0	7.9	8.1	13.2	—
	不 変	71.8	62.5	78.9	75.7	73.7	—
	難	2.6	7.5	5.3	0.0	5.3	—
	該当なし	17.9	15.0	7.9	16.2	7.8	—

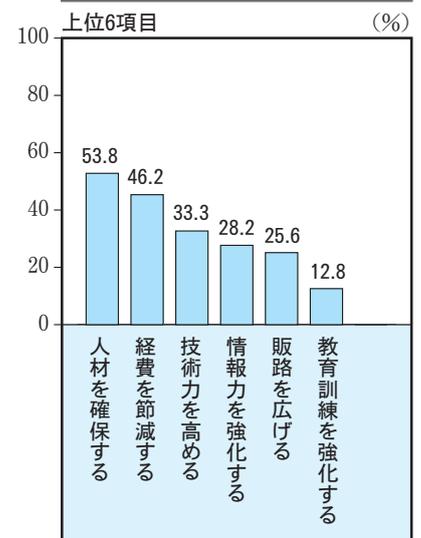
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	した	35.7	38.1	52.2	55.8	40.5	33.3
	しない	64.3	61.9	47.8	44.2	59.5	66.7
状 況	過 剰	2.5	2.4	0.0	0.0	5.3	5.3
	適 正	87.5	78.1	82.1	92.1	84.2	89.4
	不 足	10.0	19.5	17.9	7.9	10.5	5.3
DI	▲7.5	▲17.1	▲17.9	▲7.9	▲5.2	0.0	

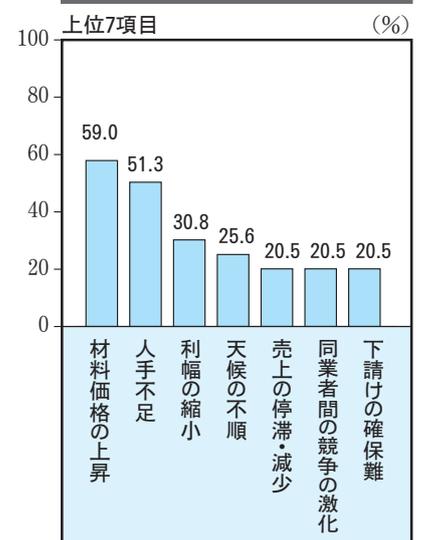
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	17.9	14.6	20.5	13.2	12.8	10.3
	不 変	59.0	68.3	59.0	68.4	79.5	82.0
	減 少	23.1	17.1	20.5	18.4	7.7	7.7
人 手	過 剰	2.5	9.8	5.1	2.6	0.0	2.4
	適 正	57.5	43.9	53.9	53.8	38.5	34.2
	不 足	40.0	46.3	41.0	43.6	61.5	63.4

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



卸 売 業 (調査先企業10社 うち回答企業8社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**12.5%**（前期**0.0%**）、悪かったとする企業は**50.0%**（前期**55.6%**）で前期には無い良かったとする企業が出てきている。DIは**▲37.5**（前期**▲55.6**）とプラス**18.1**ポイントで厳しさは和らいでいる。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲50.0**（前期**11.1**）と**▲61.1**ポイントで水面下に落込み、収益のDIも**▲25.0**（前期**0.0**）と減少に転じている。販売価格のDIは**37.5**（前期**33.3**）と**4.2**ポイント増加でやや上昇傾向は強まった。仕入価格のDIについても**▲50.0**（前期**▲44.4**）と**▲5.6**ポイントで上昇傾向は強まった。資金繰りのDIは**0.0**（前期**11.1**）と**▲11.1**ポイントであるが今期は「変わらず」の回答が**100%**であった。借入れをした企業は**25.0%**（前期**22.2%**）、設備投資の実施をした企業は**0.0%**（前期**0.0%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**0.0**（前年同期**▲70.0**）でプラス**70.0**ポイントの好転、収益のDIにおいても**37.5**（前年同期**▲60.0**）でプラス**97.5**ポイントの好転となった。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、業況のDIは**▲25.0**（今期**▲37.5**）とプラス**12.5**ポイントで水面下ながら改善する予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**12.5**（今期**▲50.0**）のプラス**62.5**ポイント、収益のDIにおいても**25.0**（今期**▲25.0**）のプラス**50.0**ポイントで、どちらも増勢に転じる見通しである。価格面をみると、販売価格のDIは**50.0**（今期**37.5**）で引続き上昇を予想しているが、仕入価格のDIにおいても**▲75.0**（今期**▲50.0**）と**▲25.0**ポイントで上昇傾向を強める見通しである。資金繰りのDIは**0.0**（今期**0.0**）と来期も変わらず窮屈感はない予想である。借入れを予定している企業は**12.5%**（今期実施**25.0%**）、設備投資の実施を予定している企業は**12.5%**（今期実施**0.0%**）となっている。

◆DI指数推移

	2020年		2021年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	▲70.0	▲55.6	▲50.0	▲55.6	▲37.5	▲25.0
売 上 額	▲10.0	0.0	▲60.0	11.1	▲50.0	12.5
収 益	▲10.0	▲11.1	▲40.0	0.0	▲25.0	25.0
販 売 価 格	0.0	11.1	10.0	33.3	37.5	50.0
仕 入 価 格	10.0	▲22.2	▲20.0	▲44.4	▲50.0	▲75.0
在 庫	20.0	11.1	20.0	11.1	12.5	12.5
資 金 繰 り	0.0	0.0	▲20.0	11.1	0.0	0.0

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	した	30.0	11.1	40.0	22.2	25.0	12.5
	しない	70.0	88.9	60.0	77.8	75.0	87.5
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	不 変	70.0	66.7	70.0	66.7	75.0	—
	難	10.0	11.1	10.0	11.1	12.5	—
	該当なし	20.0	22.2	20.0	22.2	12.5	—

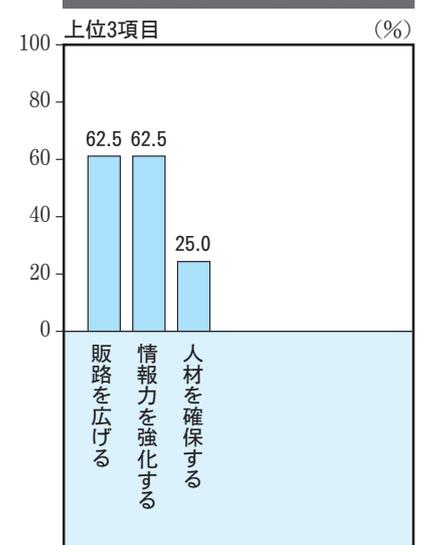
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	した	20.0	11.1	0.0	0.0	0.0	12.5
	しない	80.0	88.9	100.0	100.0	100.0	87.5
状 況	過 剰	10.0	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0
	適 正	80.0	88.9	68.9	88.9	100.0	100.0
	不 足	10.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
DI	0.0	11.1	▲8.9	11.1	0.0	0.0	

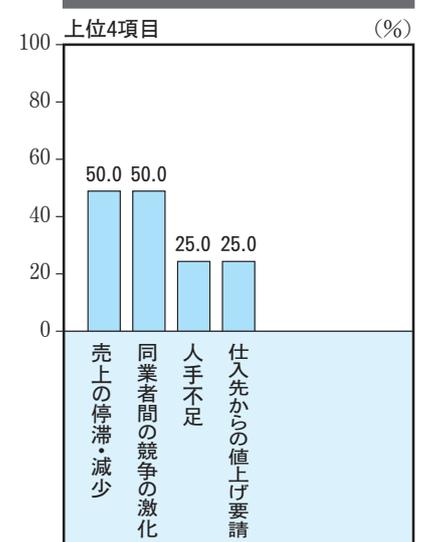
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	0.0	11.1	10.0	22.2	12.5	12.5
	不 変	80.0	88.9	80.0	77.8	87.5	87.5
	減 少	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
人 手	過 剰	30.0	11.1	20.0	22.2	0.0	0.0
	適 正	60.0	88.9	60.0	66.7	87.5	87.5
	不 足	10.0	0.0	20.0	11.1	12.5	12.5

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

小 売 業

(調査先企業37社 うち回答企業30社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**6.7%**（前期**3.3%**）、悪かったとする企業は**73.3%**（前期**73.3%**）、DIは**▲66.7**（前期**▲70.0**）とプラス**3.3**ポイントでやや改善しているものの依然厳しい状況は続いている。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**▲33.3**（前期**▲63.3**）、**収益**のDIは**▲53.3**（前期**▲70.0**）とそれぞれ**30.0**ポイント、**16.7**ポイントプラスで、減少・減益幅が縮小している。**販売価格**のDIは**▲3.3**（前期**10.0**）と**▲13.3**ポイントで上昇から下降へ転じ、**仕入価格**のDIにおいては**▲43.3**（前期**▲30.0**）で上昇を強めている。**資金繰り**のDIは**▲10.0**（前期**▲20.0**）と窮屈感はやや和らいでいる。**借入れ**をした企業は**13.3%**（前期**6.7%**）、**設備投資の実施**をした企業は**19.2%**（前期**12.5%**）となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**▲34.5**（前年同期**▲78.8**）で**44.3**ポイント減少幅は縮小、**収益**のDIも**▲51.7**（前年同期**▲69.7**）で**18.0**ポイント減益幅は縮小している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲50.0**（今期**▲66.7**）とプラス**16.7**ポイントで悪化は弱まる予想をしている。

各指標別を今期と比べてみると、**売上額**のDIは**▲23.3**（今期**▲33.3**）、**収益**のDIは**▲26.7**（今期**▲53.3**）とどちらも減少幅が縮小する見通しである。**販売価格**のDIは**▲3.3**（今期**▲3.3**）と下降幅は変わらず、**仕入価格**のDIは**▲36.7**（今期**▲43.3**）と上昇はやや弱まる見通しである。**資金繰り**のDIは**▲6.7**（今期**▲10.0**）と窮屈感はやや弱まる予想となった。**借入れ**を予定している企業は**3.3%**（今期実施**13.3%**）、**設備投資の実施**を予定している企業は**16.7%**（今期実施**19.2%**）となっている。

◆DI指数推移

	2020年		2021年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	▲72.7	▲47.1	▲51.5	▲70.0	▲66.7	▲50.0
売 上 額	▲48.5	▲22.9	▲48.5	▲63.3	▲33.3	▲23.3
収 益	▲48.5	▲28.6	▲36.4	▲70.0	▲53.3	▲26.7
販 売 価 格	0.0	▲5.7	6.1	10.0	▲3.3	▲3.3
仕 入 価 格	▲18.2	▲5.7	▲27.3	▲30.0	▲43.3	▲36.7
在 庫	▲9.4	2.9	▲6.3	6.7	3.3	0.0
資 金 繰 り	▲9.1	▲20.0	▲27.3	▲20.0	▲10.0	▲6.7

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	した	39.4	28.6	21.2	6.7	13.3	3.3
	しない	60.6	71.4	78.8	93.3	86.7	96.7
借 入 難 易 度	容 易	12.5	5.7	12.1	10.0	13.3	—
	不 変	62.5	65.7	54.5	63.3	66.7	—
	難	9.4	8.6	9.1	6.7	6.7	—
	該当なし	15.6	20.0	24.3	20.0	13.3	—

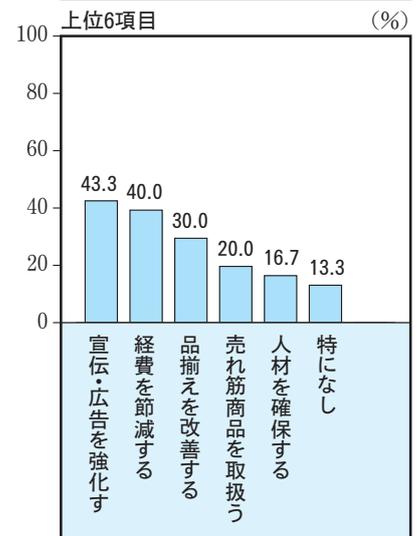
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	した	17.2	18.2	10.3	12.5	19.2	16.7
	しない	82.8	81.8	89.7	87.5	80.8	83.3
状 況	過 剰	6.1	5.9	0.0	6.9	6.9	3.4
	適 正	81.8	79.4	84.8	82.8	72.4	75.9
	不 足	12.1	14.7	15.2	10.3	20.7	20.7
DI	▲6.0	▲8.8	▲15.2	▲3.4	▲13.8	▲17.3	

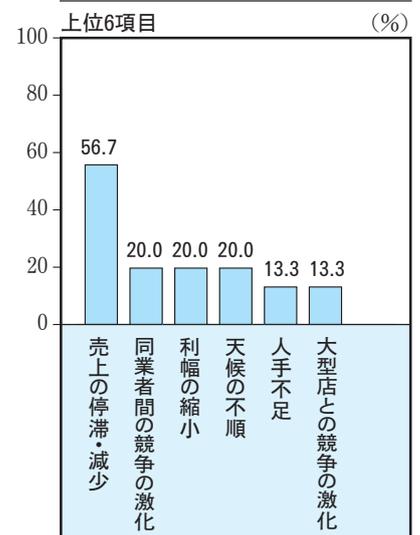
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	3.0	11.4	6.1	0.0	3.4	3.4
	不 変	69.7	74.3	81.8	75.0	82.8	86.3
	減 少	27.3	14.3	12.1	25.0	13.8	10.3
人 手	過 剰	15.2	5.9	9.1	10.0	6.7	3.3
	適 正	60.6	70.6	66.7	80.0	73.3	66.7
	不 足	24.2	23.5	24.2	10.0	20.0	30.0

重点経営施策 (複数回答)



経営上の問題点 (複数回答)



サービス業 (調査先企業27社 うち回答企業23社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**0.0%**（前期**0.0%**）、悪かったとする企業は**78.3%**（前期**84.2%**）、DIは**▲78.3**（前期**▲84.2**）でプラス**5.9**ポイントと水面下ながら厳しさはやや緩和されている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲39.1**（前期**▲60.0**）でプラス**20.9**ポイント、収益のDIにおいても**▲47.8**（前期**▲55.0**）でプラス**7.2**ポイントと、どちらも減少幅が縮小している。料金価格のDIは**8.7**（前期**15.0**）と上昇が弱まっている。また、仕入価格のDIでは**▲21.7**（前期**▲20.0**）と上昇幅はやや拡大している。資金繰りのDIは**▲26.1**（前期**▲45.0**）とプラス**18.9**ポイントで厳しさは和らいでいる。借入れをした企業は**9.1%**（前期**30.0%**）、設備投資の実施をした企業は**9.1%**（前期**15.8%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲26.1**（前年同期**▲79.2**）で**53.1**ポイント、収益のDIは**▲21.7**（前年同期**▲75.0**）で**53.3**ポイント、いずれも水面下ながら減少・減益幅が縮小している。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、業況のDIは**▲78.3**（今期**▲78.3**）と厳しいまま今期と変わらない予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**▲43.5**（今期**▲39.1**）で**▲4.4**ポイントと減少幅が拡大、収益のDIにおいては**▲43.5**（今期**▲47.8**）でプラス**4.3**ポイントとやや回復する予想。仕入価格のDIは**▲17.4**（今期**▲21.7**）で上昇幅は縮小する見通しである。料金価格のDIは**4.3**（今期**8.7**）と**▲4.4**ポイントで上昇すると予想する企業の割合が減る見通しである。資金繰りのDIは**▲17.4**（今期**▲26.1**）と厳しさはやや和らぐ見通しである。借入れを予定している企業は**0.0%**（今期実施**9.1%**）、設備投資の実施を予定している企業は**4.5%**（今期実施**9.1%**）となっている。

◆DI指数推移

	2020年		2021年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	▲75.0	▲69.2	▲65.4	▲84.2	▲78.3	▲78.3
売 上 額	▲41.7	▲30.8	▲73.1	▲60.0	▲39.1	▲43.5
収 益	▲41.7	▲34.6	▲73.1	▲55.0	▲47.8	▲43.5
料 金 価 格	▲4.2	3.8	▲7.7	15.0	8.7	4.3
材 料 価 格	▲29.2	▲19.2	▲3.8	▲20.0	▲21.7	▲17.4
資 金 繰 り	▲45.8	▲30.8	▲46.2	▲45.0	▲26.1	▲17.4

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	し た	66.7	44.0	32.0	30.0	9.1	0.0
	し ない	33.3	56.0	68.0	70.0	90.9	100.0
借 入 難 易 度	容 易	20.8	13.0	12.0	15.8	4.3	—
	不 変	50.0	60.9	68.0	63.2	65.2	—
	難	8.3	13.0	8.0	5.3	8.7	—
	該 当 なし	20.9	13.1	12.0	15.7	21.8	—

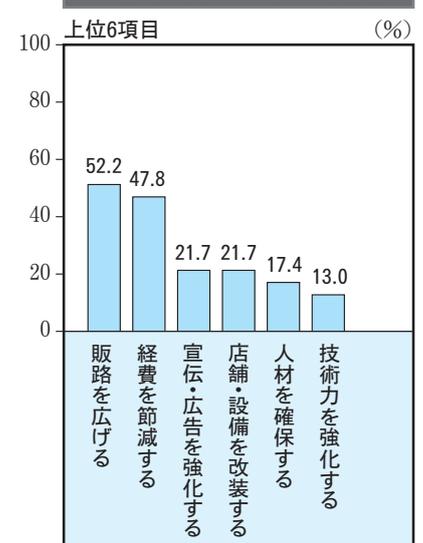
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	し た	18.2	16.0	8.0	15.8	9.1	4.5
	し ない	81.8	84.0	92.0	84.2	90.9	95.5
状 況	過 剰	0.0	7.7	3.8	10.0	0.0	0.0
	適 正	75.0	76.9	88.5	70.0	78.3	78.3
	不 足	25.0	15.4	7.7	20.0	21.7	21.7
DI	▲25.0	▲7.7	▲3.9	▲10.0	▲21.7	▲21.7	

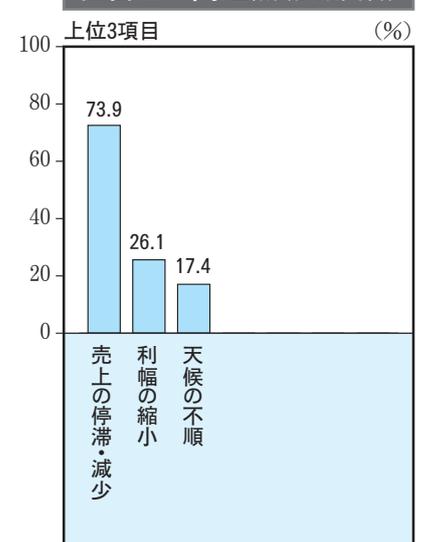
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	0.0	8.0	0.0	5.0	4.5	4.5
	不 変	45.8	44.0	37.5	70.0	54.6	59.1
	減 少	54.2	48.0	62.5	25.0	40.9	36.4
人 手	過 剰	12.5	11.5	19.2	25.0	8.7	8.7
	適 正	70.8	73.1	57.7	45.0	60.9	65.2
	不 足	16.7	15.4	23.1	30.0	30.4	26.1

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



不動産業 (調査先企業6社 うち回答企業5社)

◆**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**0.0%**（前期**0.0%**）、悪かったとする企業は**20.0%**（前期**16.7%**）で、DIは**▲20.0**（前期**▲16.7**）の**▲3.3**ポイントと低調感を強めている。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲20.0**（前期**▲50.0**）でプラス**30.0**ポイント、収益のDIは**▲40.0**（前期**▲50.0**）でプラス**10.0**ポイントとそれぞれ減少・減益幅が縮小している。価格面においては、販売価格のDIは**0.0**（前期**▲33.3**）でプラス**33.3**ポイントと落ち着きを見せているが、仕入価格のDIは**▲20.0**（前期**16.7**）と厳しい状況に転じている。資金繰りのDIは、**0.0**（前期**0.0**）で窮屈感は無く安定している。借入れをした企業は**40.0%**（前期**33.3%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**40.0**（前年同期**▲50.0**）でプラス**90.0**ポイントと増加に転じ、収益のDIも同様**20.0**（前年同期**▲33.3**）でプラス**53.3**ポイントと増益に転じている。

◆**来期の見通し**：来期の見通しについては、業況のDIは**▲20.0**（今期**▲20.0**）と変わらず低迷する予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**20.0**（今期**▲20.0**）でプラス**40.0**ポイント、収益のDIも**20.0**（今期**▲40.0**）でプラス**60.0**ポイントとどちらも好転する見通しである。販売価格のDIは**▲20.0**（今期**0.0**）と変わらず低迷し、仕入価格のDIにおいては**▲20.0**（今期**▲20.0**）と上昇したまま現状維持の見通しである。資金繰りのDIは、**0.0**（今期**0.0**）と引き続き安定する見通しである。借入れを予定している企業は**60.0%**（今期実施**40.0%**）となっている。

◆DI指数推移

	2020年		2021年		予想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業況	▲66.7	▲50.0	▲50.0	▲16.7	▲20.0	▲20.0
売上額	▲83.3	▲83.3	▲75.0	▲50.0	▲20.0	20.0
収益	▲50.0	▲50.0	▲75.0	▲50.0	▲40.0	20.0
販売価格	0.0	▲16.7	▲25.0	▲33.3	0.0	▲20.0
仕入価格	0.0	16.7	0.0	16.7	▲20.0	▲20.0
在庫	▲16.7	▲33.3	▲50.0	▲33.3	▲20.0	0.0
資金繰り	▲16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

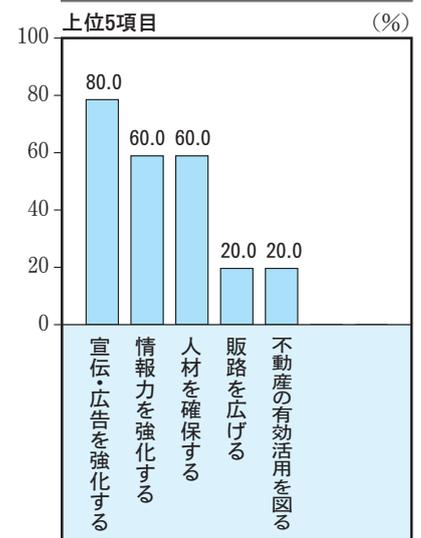
◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年		予想		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借入実施	した	33.3	33.3	25.0	33.3	40.0	60.0
	しない	66.7	66.7	75.0	66.7	60.0	40.0
借入難易度	容易	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	不変	83.3	83.3	100.0	100.0	100.0	—
	難	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0	—
	該当なし	8.4	0.0	0.0	0.0	0.0	—

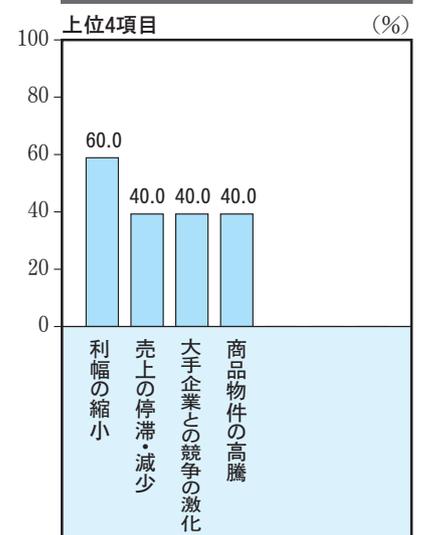
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2020年		2021年		予想		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残業時間	増加	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	不変	50.0	80.0	66.7	100.0	100.0	100.0
	減少	50.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人手	過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適正	83.3	80.0	100.0	100.0	60.0	60.0
	不足	16.7	20.0	0.0	0.0	40.0	40.0

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



特別調査 中小企業の雇用環境について

問 1 貴社では、人手の状況をどのように認識していますか。

総合的に見ると「人手が不足している」とした企業が最も多く全体の**54.7%**で、職域の内訳は「現場作業関係」**44.1%**、「営業・販売関係」**8.1%**、「その他の職種」**1.9%**、「経理・財務・管理関係」**0.6%**であった。続いて「適正」が**43.5%**、「人手が過剰している」とした企業は**1.8%**であった。

業種別に見ると「人手が不足している」の回答が最も多かった業種は建設業で**77.0%**、続いて卸売業が**62.5%**、製造業が**54.1%**の順となった。職域の内訳では建設業と製造業が「現場作業関係」がそれぞれ**74.4%**、**47.5%**で最も多かったのに対し、卸売業は「営業・販売関係」が**50.0%**で最も多い職域となっている。その他の業種はすべて「適正」の回答が最も多く、サービス業**65.2%**、不動産業**60.0%**、小売業**52.0%**であった。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
人手不足	1. 現場作業関係	44.1	47.5	74.4	12.5	28.0	0.0
	2. 営業・販売関係	8.1	3.3	2.6	50.0	16.0	40.0
	3. 経理・財務・管理関係	0.6	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0
	4. その他の職種	1.9	3.3	0.0	0.0	0.0	4.3
	5. 適正	43.5	44.3	23.1	37.5	52.0	65.2
人手過剰	6. 現場作業関係	1.2	1.6	0.0	0.0	0.0	4.3
	7. 営業・販売関係	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8. 経理・財務・管理関係	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3
	9. その他の職種	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 2 政府はこれまで、最低賃金を毎年3%程度引き上げてきました(2020年を除く)。最低賃金の引き上げが、貴社の雇用に与える影響はありますか。

総合的に見ると、「正規社員への影響」では「変わらない」とした企業が最も多く**75.7%**、続いて「わからない」が**9.4%**、「増やす」が**8.9%**、「減らす」と「もともと社員はいない」が同率で**3.0%**の順であった。「非正規社員への影響」でも「変わらない」とした企業が最も多く**50.7%**、続いて「もともと社員はいない」が**27.6%**、「増やす」と「わからない」が同率で**7.5%**、「減らす」が**6.7%**の順であった。

業種別に見ても、「正規社員への影響」、「非正規社員への影響」共に「変わらない」とした企業が最も多い回答となったが、「非正規社員への影響」においての小売業および不動産業については「変わらない」と同率で「もともと正社員はいない」も最も多い回答となっている。

(%)

正規社員への影響	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 減らす	3.0	1.4	2.5	0.0	0.0	13.6	0.0
2. 変わらない	75.7	82.6	72.5	87.5	68.0	63.6	80.0
3. 増やす	8.9	7.2	17.5	0.0	8.0	4.5	0.0
4. わからない	9.4	7.2	7.5	12.5	20.0	9.1	0.0
5. もともと正社員はいない	3.0	1.4	0.0	0.0	4.0	9.1	20.0
非正規社員への影響	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
6. 減らす	6.7	8.2	0.0	0.0	9.5	15.8	0.0
7. 変わらない	50.7	51.0	60.6	50.0	42.9	42.1	50.0
8. 増やす	7.5	8.2	9.1	0.0	4.8	10.5	0.0
9. わからない	7.5	6.1	6.1	25.0	0.0	15.8	0.0
10. もともと正社員はいない	27.6	26.5	24.2	25.0	42.9	15.8	50.0

問 3 貴社では、人材確保のための職場環境改善へ向けて実施していることはありますか。

総合的に見ると「賃金引上げと労働生産性の向上」が**20.7%**で最も多い回答となり、続いて「特にない」が**18.2%**、「人材育成」が**17.9%**、「女性・若者が活躍しやすい環境整備」が**13.3%**、「長時間労働の是正」が**11.9%**の順となった。

業種別に最も多かった回答は、製造業と建設業が「賃金引上げと労働生産性の向上」でそれぞれ**23.4%**、**26.7%**、小売業とサービス業が「特にない」でそれぞれ**50.0%**、**32.4%**、不動産業は「女性・若者が活躍しやすい環境整備」で**36.4%**、卸売業では「賃金引上げと労働生産性の向上」「女性・若者が活躍しやすい環境整備」「高齢者の就職促進」「特にない」の4回答が**18.8%**で同率最多となった。

(%)

【複数回答】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 同一労働同一賃金など非正規雇用の処遇改善	2.1	3.9	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 賃金上げと労働生産性の向上	20.7	23.4	26.7	18.8	8.3	17.6	9.1
3. 長時間労働の是正	11.9	15.6	10.0	6.3	8.3	11.8	0.0
4. 人材育成	17.9	18.0	25.0	0.0	8.3	23.5	18.2
5. テレワーク、副業・兼業など柔軟な働き方	1.1	0.8	0.0	6.3	0.0	0.0	9.1
6. 女性・若者が活躍しやすい環境整備	13.3	14.1	6.7	18.8	16.7	8.8	36.4
7. 高齢者の就職促進	8.4	9.4	11.7	18.8	5.6	0.0	0.0
8. 病気の治療、子育て・介護と仕事の両立	4.2	4.7	0.0	12.5	2.8	2.9	18.2
9. 外国人等多様な人材の受入れ	2.1	2.3	3.3	0.0	0.0	2.9	0.0
10. 特になし	18.2	7.8	15.0	18.8	50.0	32.4	9.1

問4 人材確保が難しくなるなか、貴社では、生産性向上に向けた取組みをしていますか。

総合的に見ると「特になし」が22.7%で最も多い回答となり、続いて「機械設備の導入」が17.8%、「業務プロセスの改善」が11.6%、「人材育成の実施」が11.2%、「働きやすい環境や制度の整備」が9.9%の順となった。

業種別に最も多かった回答は、製造業が「機械設備の導入」で32.7%、小売業とサービス業が「特になし」でそれぞれ54.5%、38.7%、不動産業は「IT投資の実施」で37.5%であった。建設業では「業務の外注」「業務プロセスの改善」「特になし」の3回答が16.7%で同率最多、卸売業では「企業間連携による業務の共同化等」「業務の外注」「人材育成の実施」「働きやすい環境や制度の整備」「特になし」の5回答が16.7%で同率最多となった。

(%)

【複数回答】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 機械設備の導入	17.8	32.7	13.3	0.0	6.1	3.2	0.0
2. IT投資の実施	9.1	8.2	13.3	8.3	6.1	0.0	37.5
3. 企業間連携による業務の共同化等	1.7	1.0	0.0	16.7	3.0	0.0	0.0
4. 業務の外注	8.7	6.1	16.7	16.7	3.0	3.2	12.5
5. 高付加価値業務への集中・転換、単価の引上げ	7.0	10.2	0.0	0.0	9.1	12.9	0.0
6. 業務プロセスの改善	11.6	10.2	16.7	8.3	9.1	9.7	12.5
7. M&Aなどの事業再編による規模の拡大	0.4	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0
8. 人材育成の実施	11.2	8.2	10.0	16.7	9.1	19.4	25.0
9. 働きやすい環境や制度の整備	9.9	11.2	11.7	16.7	0.0	12.9	0.0
10. 特になし	22.7	12.2	16.7	16.7	54.5	38.7	12.5

問5 貴社では、人材育成や確保のために、地域金融機関に対して融資以外の点で求めることはありますか。

総合的に見ると「特に求めている」が26.7%で最も多い回答となり、続いて「補助金・助成金の紹介」が23.7%、「人材の紹介・派遣」が18.5%、「他企業の先進事例紹介」が9.9%、「採用にかかる情報提供」が6.9%、「人材マッチングサービスの活用」が4.7%の順となった。

業種別に最も多かった回答は、製造業と不動産業が「補助金・助成金の紹介」でそれぞれ29.8%、30.0%、建設業と小売業とサービス業が「特に求めている」でそれぞれ28.8%、41.2%、51.9%、卸売業は「人材の紹介・派遣」で26.7%であった。

(%)

【複数回答】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 人材の紹介・派遣	18.5	19.1	23.1	26.7	14.7	14.8	0.0
2. 取引先金融機関の人材を派遣	0.4	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3. 人材マッチングサービスの活用	4.7	4.3	3.8	6.7	5.9	7.4	0.0
4. 補助金・助成金の紹介	23.7	29.8	15.4	20.0	23.5	18.5	30.0
5. 採用にかかる情報提供	6.9	7.4	7.7	6.7	8.8	3.7	0.0
6. 社労士等の専門家紹介	1.7	2.1	0.0	6.7	0.0	0.0	10.0
7. 従業員研修の実施	3.9	5.3	3.8	0.0	0.0	0.0	20.0
8. 他企業の先進事例紹介	9.9	9.6	13.5	13.3	5.9	3.7	20.0
9. 福利厚生サービス等の利用提案	3.4	4.3	3.8	6.7	0.0	0.0	10.0
10. 特に求めている	26.7	17.0	28.8	13.3	41.2	51.9	10.0

フリーローンあるプラス

お使いみち自由 お手続きカンタン

ご融資金額
最高
1,000万円
(1万円単位)

ご融資期間
最長10年

アルバイト
パートの方も
OK!

ご融資利率

年3.5%~年14.0%



おまとめ・お借換え



教育



医療



レジャー・趣味



安全対策



ブライダル



自家用車



介護



旅行



リノベーション